



福島県立梁川高等学校

学校だより

知性 誠実 責任

第 13 号

令和2年12月18日（金）

第 2 学期終業式

本日、12月18日（金）をもって第2学期が終了しました。明日から25日間に及ぶ冬季休業となります。放送による終業式では、校長より次の話をしました。

「一隅（いちぐう）を照らす」という言葉があります。一隅とは片隅という意味です。この言葉は、片隅の誰も注目しないような物事に、ちゃんと取り組む人こそ尊い人だという意味です。誰もが注目するような表舞台で派手に活躍するばかりが尊いわけではありません。一人一人が自分のいる場所で、目立たなくてもちゃんと取り組むことこそが、私たちの本来の役目です。それが積み重なることで世の中が出来上がっていきます。

私たちは、すぐ派手なこと、目立つことに目を奪われてしまいます。しかし、どこかの片隅で誰の目にも止まらないようなものに目を向けていくことも、同じように尊いことなのだと思います。

大きく世界を変えようとするのではなく、まず目の前のこと、今自分にできることを一生懸命やっていく。そうやって一人一人が灯す小さな光がやがて大きな光となります。みんなが気がつかないような片隅で社会を照らしているような人が、国の宝と言えます。たとえ注目されなくても、自分が置かれた場所でベストを尽くすことが大切です。一人一人が自分が置かれている環境で精一杯努力することが、学校や会社などの組織全体にとって最も貴重なこととなります。

皆さんの中には、近い将来、社会に出て、職場や地域社会などでリーダーとして活躍する人もいるかもしれません。一方、組織の先頭に立つわけではありませんが、自分の持ち場に責任をもち、地味ながらも着実に取り組み、結果を出していく人もいます。こういった人たちが、社会に立派に貢献できる人、地域に貢献できる人材なのだと思います。

皆さんの中には、「一隅を照らす」ような学校生活を送っている人がたくさんいます。そんな皆さんを見ていると、社会に出ても、きっと「一隅を照らす」人になってくれるように思います。ぜひこれからも、自分が置かれている環境で精一杯努力できる人になれるよう精進してください。

では、来る2021年、令和3年、そして1月13日（水）から始まる第3学期、さらには4月からの新たな生活に向けて、感染症対策をしながら25日間の冬休みを有意義に使ってください。